



人材育成の全体構造図

win3 K-18 (日本版K-12) の提案

近未来編



子育てwin3計画

初出 2022/02/18

改訂 2024/02/14

作成:水野正司(子育て支援クリエイター)

乳児期

0~1歳

愛着形成

産前産後ケアの充実

- ①妊娠届、妊婦健診、両親学級、訪問指導などの機会を活かした共助
- ②「心身の不調又は育児不安等がある者」という対象ではなく、気軽に利用できる仕組みづくり
- ③高校家庭科に「子育て」を導入し、乳児への理解を社会化
- ④男性の出産休業、育児休業の推進
- ⑤全日本イクメン大賞の実施

幼児期

1~3歳/4~5歳

遊び (言葉/体験/学習)

質の高い幼児教育 《行政・家庭・園所連携》

- ①1歳半検診・3歳児健診・5歳児健診の機会を活かした共助
- ②子育ての仕方をスキルとして共有化する
- ③様々な体験・遊びの機会を充実させる社会環境づくり
- ④家庭環境の格差を解消させる「公正な」子育て支援
- ⑤保育士の待遇改善とスキルアップ
- ⑥発達障害支援法の適切実施
- ⑦就学時健診の適正実施
- ⑧子育て層の労働時間の短縮
- ⑨英会話指導の充実などを通してすべての幼児に質の高い教育を保障

低中学年

6~10歳

学力の基礎

教員養成・採用制度の改善

- ①大学3年目からの実習
- ②採用前のインターンシップ化(市町村が免許状を)
- ③特別支援免許の専修化
- ④教養重視の試験をスキル重視の試験へ

学習指導要領の弾力化

- ①小学校4年生程度の読み書き計算の確実な保証と過剰な時数の削減(学校教育法第二十九条の実現)
- ②幼児教育からの英会話教育の接続

各学校の工夫

- ①毎日4~5時間での放課
- ②一日計60分以上の学校における休み時間の保障

高学年

11~12歳

現代的学力の履修

学びの本質化

- ①「総合」の時数を拡大し、情報読解、AI活用、健康、性教育(性交も含む)、英会話、金融、環境、子育て、高齢者理解、シチズンシップ、地政学などの現代的課題の充実
- ②中間・期末などに頼らない多様な評価
- ③SEM(ギフテッド教育)

働き方改革

- ①授業の外注化(専門家による授業を拡大)
- ②オンライン授業の時数を承認
- ③授業者と学級担任の分業化
- ④毎日5時間での放課
- ⑤体験活動の充実
- ⑥部活動の副業化
- ⑦フリースクールなど民間施設による出席扱いの弾力化

中学生

13~15歳

高校生

16~18歳

社会経験 国際経験

評価や入試の多様化

- ①高校入試を教養重視から多様で个性的な形に
- ②普通科以外の多様な学科の充実
- ③共通科目の見直し
- ④「学びの本質」に基づく授業改善
- ⑤中間・期末などに頼らない多様な評価

働き手不足の解消

- ①登校は週3日
- ②通信授業拡大
- ③地域での報酬ありのインターンバイト
- ④海外留学奨励
- ⑤大学進学までの自由時間の保障

大学生

年齢不問

研究/スキル

入試改革

- ①9月入学の実施
- ②社会人の入学も奨励する

目的の明確化

- 【A】研究者としての入学
 - 【B】スキルを修得するための入学
- その目的を明確にし、進級・卒業は試験や実績で判断する。

海外留学推進

- ①積極的に実施
- ②受け入れも拡大

研究費増額

- ①役に立つ研究
- ②役に立たない研究の両者を支援する。